

あ と が き

今、信大環境問題研究教育懇談会の歴史をふり返ると、その発足は昭和53年度で、研究の名称は「環境科学の総合化に関する研究（松田松二教授代表）」となっている。4年間この名称が続き、昭和57年度からは「信州の自然環境モニタリングと地域社会（釘本完教授代表）」として、3年間の研究教育が継続されている。昭和60年から3年間は「信州の環境保全と地域計画（森本尚武教授代表）」というテーマになっている。昭和63年からは「ハイテク時代における信州の環境保全とその創造（村山忍三教授代表）」として、更に2年間の研究継続が約束されている。この間に、報告書の紙面の色は8回変化しているし、英文訳がきまったのはNo.5からであり、

Bulletin of Environmental Conservation, Shinshu University

となっている。あとかきが、書かれたのはNo.10からである。今回は、研究内容の国際化と、一般化に対応して、編集世話人会議で

The Annals of Environmental Science Shinshu University

と、することになった。日本語の方も、

環境科学年報 信州大学

となり、従来の信州大学環境科学論集を継続することとなった。昭和も終わり、平成元年の新しい風が、ブッシュの言うように吹き始めている時である。この懇談会も、従来の伝統の上に立って、新しい脱皮をなしとげようとしつつある。その一つの試みとして、論文、報告等のスタイルの統一、内容のレベルのチェック等について、ある程度の編集上の世話をしていただくために、各学部にも1名ずつ編集世話人を、お願いすることとなった。内容自身については勿論、著者に責任があるが、全体を通して眺めて無理のない形式に、紙面が仕上げられることが、読む側にとっても好ましいものである。このあたりの編集側の意図をくみとって、今回の改革の事情の御了解をいただきたいものである。

共同研究の体制についても、積極的な御意見をうけ給り、次年度にそれを反映させたいと考えている。

事務局は、相談の結果、あと一年は医学部環境生理学教室で引き受け、酒井秋男助教授が、事務局長をあと一年も継続するというので、現在、業務は進行している。もちろん、この業務はかなり大変であり、私の教室の全員及び医学部内の他の教室の会員が、実務に協力して居られることを、ここに申し添えたい。会の発展を祈る。

1989年3月

世話人 上田五雨